

令和二年学力検査

全日制課程 B

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号	第	番
------	---	---



# 著作権保護のため非表示

B

A

6

5

（長谷川眞理子『世界は美しく不思議に満ちている』）

「共感」から考えるヒトの進化」による

（注）

○ ①⑥は段落符号である。

○ 院生Ⅱ大学院の学生。

○ テトラポッドⅡ海岸などに積み上げて波の浸食を防ぐコンクリートブロック。

○ 森羅万象Ⅱ宇宙に存在する全てのもの。

○ 博物学者Ⅱ動物・植物・鉱物などの自然物について研究を行う学者。

① 私には、この感覚がわからない。とあるが、筆者がこのように感じる理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 幼少期に自然の中で遊ぶ経験があれば、人生の楽しさや意味はおのずと理解されるはずであると思っっているから。

イ 人生経験の多少にかかわらず、大学生にもなれば生きることの意味は理解できるようになると考えているから。

ウ 自然現象を科学的に探究していくだけでは、生きることの意味や価値は見えてこないと考えているから。

エ 美しく不思議に満ちている自然を探究できるだけでも、生きることの価値は十分にあると思っっているから。

(二) それはそれは印象的な出来事であった とあるが、どのような点が強く印象に残ったのか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 大野先生が珍しい生物の名前までよく知っており、校長先生の知らないことまで即座に答えたところから、生物学の奥深さを感じた点

イ 大野先生は生物の名前だけでなく、図鑑に載っていない具体的な生態についても知っており、野外で実物を観察することの大切さに気づかされた点

ウ 大野先生は専門とする貝類についてよく知っているだけでなく、あらゆる自然物に対して関心をもち、知識も豊富であることに驚かされた点

エ 大野先生がいつも採集瓶を持ち歩き、生物を採取しては観察している姿を目にして、先生の自然に対する探究心にはとてもかなわな

(三) A と B には同じことばが入る。その最も適当なことばを、同じ段落からそのまま抜き出して、九字で書きなさい。

(四) ③ 氷山の一角に過ぎない とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人間の脳は、意識下の部分でからだを生き続けさせることを第一の業務にしているということ

イ 人間の脳は、生きるために必要な問いが意識に上るように意識下から働きかけているということ

ウ 人間の意識は、生き続けるためのからだと脳の働き全体のほんのわずかな部分であるということ

エ 人間の意識は、からだを生き続けさせようと意識下で働いている脳に支配されているということ

(五) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 自然界には理不尽なことが存在する一方で、自然のもつ美しさには、日常のいやなことを忘れさせてくれる力がある。

イ 生物学とは、客観的で詳細な観察によつて、生物が生きているという自然現象を論理的に理解しようとする試みである。

ウ 筆者が生物学者を目指したのは、子どもたちが自然を美しいと感じる経験が減っており、人間の将来に危機感をもったからである。

エ 文字情報や二次元の視覚情報ではなく、身近にある自然などの本当の現実に触れた経験こそ、人生の原点となる。

オ 都市部では、子どもが触れることのできる自然がほぼなくなって

(六) 次の文章は、ある生徒が本文を読んで書いた感想である。文章中の「ア」から「オ」までのいずれか二箇所に、あとのX、Yを補つて文章を完成させたい。その最も適切な箇所をそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

筆者は、友人や学生の「人生に意味や価値があるのかどうかかわからない、生きていく意味がわからない」という意見に対して、「私には、この感覚がわからない」と述べています。私は、この筆者の考えが最初は理解できませんでした。「ア」なぜなら、

人が生きていく上で迷ったり悩んだりするのは当然だと思っから  
です。

また、筆者自身が「決して順風満帆ではなかった」と述べてい  
るこれまでの人生の中で、どうして生きる意味や価値を見つける  
ことができたのかも分かりませんでした。「イ」

しかし、文章を読み進めるうちにだんだん分かってきました。  
「ウ」そして、人間の成長にとつては、環境がとても大切な要  
素であるということに気づきました。「エ」

私たちのからだと脳は、私たちを懸命に生き続けさせようと働  
いています。私たちはたいていそのことに気づかないまま、「生  
きている意味は何か？」などといった疑問を抱きます。「オ」  
私は、これから生きていく中で、スマートフォンやインターネ  
ットだけでは得られない経験を大切にして、「私の生きる意味」  
について考え続けていきたいと思えます。

X こうした哲学的な問いは、実は、生きているからこそ生まれ  
るものであり、筆者は、人間以外の動物たちの行動や生活を詳  
細に観察したことから、そのことに思い至りました。

Y それは、子どもの頃に住んでいた土地の豊かな自然や学校の  
先生とのすばらしい出会いが、筆者にあったからです。

二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで  
書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 自分の至らないところを省みて、明日から努力することを誓う。

② 現状をタハ<sup>ハ</sup>するためには、想像力を働かせることが大切である。

(二) 次の文中の「③」にあてはまる最も適当なことを、漢字一字  
で書きなさい。

被災地でボランティアを募っていることを知り、「③」は急げ  
と応募した。



5

「美の考古学」は、松木武彦氏の著書である。本書は、松木氏の著書『美の考古学―古代人は何に魅せられてきたか』による。

## 著作権保護のため非表示

6

「美の考古学」は、松木武彦氏の著書である。本書は、松木氏の著書『美の考古学―古代人は何に魅せられてきたか』による。

(注)

- ○ 1 6 は段落符号である。
- ○ スペクトル光をプリズム（分光器）で分解したときにできる色の帯。
- ○ バリエーション変化。
- ○ 希少にきわめて少なく珍しいこと。
- ○ いらかかわらぶきの屋根。
- ○ 企図するにねらいをもって計画する。
- ○ いやおうなく承知、不承知に関係なく。

（松木武彦『美の考古学―古代人は何に魅せられてきたか』による）





(四) ④ 生物の営みの本源と深く結びついた知覚であると言えるのは、匂いがどのような特性をもっているからか。その内容を説明した次の文の  にあてはまる最も適切なことばを、第六段落の文章中から抜き出して、八字で書きなさい。

匂いは、故郷への帰属意識を呼びおこす  をかき立てるなど、暗黙裏のレベルで人間に刺激を与える特性をもっている知覚である。

(五) この文章の論の進め方の特徴として最も適当なものを、次のアからオまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア はじめに結論を示した後、結論と対立する考え方の問題点を根拠とともに示すことで自分の主張の妥当性を強調している。

イ 一般的に認められている考え方に対して疑問を投げかけた後、複数の具体例を根拠として独自の意見を述べている。

ウ 日常生活で感動した体験から話を始め、徐々に抽象的な事柄へと話題を広げることで自分の主張を一般化しようとしている。

エ 身の周りの現象や日常的な事柄の考察から自分の主張を導き、その後根拠となる具体例を幅広く示すことで説得力を高めている。

オ 根拠となる事例を分かりやすい表現で次々と提示し、それらの共通点を抽出することで自分の意見の正しさを明らかにしている。

四 次の古文を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

仁齋先生存在の時、大高清助といふ人、『道従録』を著して大いに先生生きていらつしやる時

を誹議す。① 門人かの書を持ち来たりて示し、且つこれが弁駁を作らん事の学説を非難した

を勸む。先生微笑してことばなし。かの門人怒りつぶやきていふ、「も

し先生弁ぜずんば吾其の任にあたらん。」と。先生しづかに言ひていは反論をしないのならば

く、「彼是ならば吾非を改めて彼が是にしたがふべし。もし吾是に彼非

ならば吾が是は即天下の公共なり。固より弁をまたず。久しうして彼も知れ渡るこゝとなすもともと反論するまで

又みづからその非をしらん。③ 汝のみづから修めよ。他をかへりみる事あなた

なかれ。」とぞ。先生の度量、大旨此のたくひなりと、ある人かたりき。

(注) ○ 仁齋 伊藤仁齋。江戸時代前期の学者。  
○ 大高清助 江戸時代前期の学者。

(『仮名世説』による)

(一) 波線部アからオまでの中から、門人が主語であるものを全て選んで、そのかな符号を書きなさい。

(二) 固より弁をまたず とあるが、仁齋先生がこのように述べた理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 反論することで相手の自尊心に傷がつくことを恐れているから。  
イ 相手に対する反論は公的な場で行うべきであると思つていから。  
ウ 自分の説が正しければすぐに世に認められると考へているから。

エ 門人が自分の学説に異を唱へたことを残念に思つていから。  
③ 汝のみづから修めよ の現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア あなたはひたすら自分自身の修養に努めなさい  
イ あなたはすぐにでも自分の考へを改めなさい  
ウ あなたはとにかく自力で争いを解決しなさい  
エ あなたはじつと彼が誤りに気づくのを待ちなさい

(四) この文章に描かれている仁齋先生の人物像として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 誤りを指摘されても、自分の学説を守ることに全力を注ぐ人物  
イ 他者からの批判に動じず、学問的な正しさを追究する人物  
ウ 意見の相違があれば、対話を重ねて相手を知ろうとする人物  
エ 素直に忠告を受け入れ、自分の短所を改めることのできる人物

(問題はこれで終わりです。)



第1時限 国語正答 全日制課程 B

四		三										二		一				
(三)	(一)	(五)	(四)	(三)						(一)	(二)	(一)	(六)	(四)	(三)	(一)		
ア	ア、イ、オ	エ	な	し	も	、	有	に	と	的	色	① (オ)	③	かえり (みて)	X (オ)	ウ	一	エ
			つ	て	し	一	さ	い	は	な	に						② (イ)	
(四)	オ		か	利	出	体	せ	る	難	区	比	(二)	打破	ウ	(五)	生	(二)	
し			用	す	的	る	人	し	分	べ	て					き		ウ
イ	(二)		さ	で	有	な	強	々	い	け	て	ウ	打破	ウ	(五)	生	ウ	
			の	き	効	高	制	に	が	に	音					は		き
			感	る	な	揚	性	一	、	用	は					、		て
ウ	ウ	情	。	手	感	が	様	そ	い	、	ウ	打破	ウ	(五)	い	ウ		
				段	を	高	に	の	る	社					、		いる	
				と	か	く	共	場	こ	会								

80 70